

群馬県高山村（国内５例目）の高病原性鳥インフルエンザ発生農場に係る
疫学調査チームの現地調査概要

令和６年１月１日に実施した現地調査により、以下のことを確認した。

1 基本情報

用途（飼養羽数）：採卵鶏（約 36 万羽）

発生家きん舎の構造：２階建てウインドウレス鶏舎

発生家きん舎の飼養形態：ケージ飼い（背中合わせ直立 8 段（各階 4 段）ケージ 4 列、
通路 5 本）

2 農場の周辺環境・農場概況

- ① 当該農場は、標高 600m の緩やかな北斜面に位置し、農場周辺はヒノキ植林及び雑木林に囲まれ、隣接して畑地がある。調査時、農場から約 4 km のため池及び約 1 ～ 2 km の河川には水鳥類は確認されなかった。
- ② 当該農場には、最も北側に位置する発生鶏舎 1 棟を含むウインドウレス鶏舎 6 棟（うち空舎 1 棟）のほか、堆肥舎、集卵室、事務所等が設置されている。農場敷地内に公道が通っており、衛生管理区域は北側の堆肥製品置場と南側のそれ以外の設備の 2 か所に分かれている。

3 通報までの経緯

- ① 飼養管理者によると、農場全体で通常 1 日当たり 30～50 羽程度の死亡のところ、発生鶏舎（通報時 233 日齢）において 12 月 29 日に 2 階の最上段中心に 31 羽、30 日に散在して 22 羽の死亡が確認され、31 日朝に 1 階北側列中央付近の最下段を中心に 84 羽の死亡を確認したことから家畜保健衛生所に通報したとのこと。
- ② 調査時は、31 日の死亡ケージ周辺の殺処分は終了していたが、29 日の死亡ケージ周辺の鶏には特段の異状は認めなかった。

4 管理人及び従業員

- ① 飼養管理者によると、当該農場では作業従事者 21 名（うち正社員 13 名、パート 1 名、実習生 7 名）が勤務しており、19 名が鶏舎内の飼養管理及び集卵作業、集卵室作業並びに死亡鶏作業を担当し、パート 1 名は集卵室のみ担当とのこと。鶏糞・堆肥作業は専属の 2 名が担当しているとのこと。
- ② 鶏舎の担当が大まかにあるが、休暇等により担当者以外が作業を実施することがあり、また、日常的な鶏舎内清掃の際は担当者以外を含めて作業するとのこと。
- ③ 12 月 26 日及び 29 日に関連会社従業員の訪問があったが、鶏舎内への立入りはなかったとのこと。

5 農場の飼養衛生管理

- ① 当該農場内を通る公道脇に消毒ゲートがあり、立入禁止看板が設置されている。公道は基本的に農場関係者以外の通行はないとのこと。農場敷地と公道との境界にはロープが設置されているとのこと。
- ② 飼養管理者によると、集卵車両及び飼料運搬車両は公道脇の消毒ゲート及び動力噴霧器により車両消毒し、再び公道を通行して衛生管理区域内に進入するとのこと。作業者は当該農場が用意した農場内用作業着及び長靴を着用し、踏込み消毒しているとのこと。

- ③ 従業員の車両は消毒ゲートを通過せず公道を通行して鶏舎の間にある衛生管理区域外駐車場に駐車するとのこと。従業員は衛生管理区域外の事務所で手洗い、農場内専用靴への履替え、白衣の着用の上、衛生管理区域内の事務所へ移動し、事務所入口の踏み槽で靴の消毒を行って入室し、手指消毒後事務所内の更衣室で衛生管理区域専用作業着及び長靴への交換を行うとのこと。
- ④ 従業員が鶏舎に入る際には、前室に設置された踏み消毒槽（オルソ剤）で消毒の上、すのこを介して鶏舎専用長靴に履き替え、作業着を羽織るとともに手指消毒を実施し、更衣室から持参した鶏舎専用手袋を着用するとのこと。
- ⑤ 当該農場は鶏舎ごとのオールイン・オールアウトを実施しており、直近の導入は12月19及び20日、出荷は12月23、25及び26日とのこと。なお、発生鶏舎は新設であり、令和5年9月に初ロットを導入したとのこと。導入及び出荷の外部業者は当該農場が用意した鶏舎内用作業着及び長靴を着用するとのこと。
- ⑥ 発生鶏舎では、温度設定により鶏舎奥側妻壁に設置された排気用換気扇が自動制御で運転し、鶏舎手前側妻壁にある入気口外側のロールカーテン及び平壁上部にあるインレットの開閉を手動制御することで温度を調整していたとのこと。また、鶏舎中央部から舎内空気を2本のダクトで入気側に戻し、外気と混合した空気を舎内カーテンで調整することで鶏舎内換気を行っていた。2階ケージの最上段には1列当たり5分割された糞乾ダクトがあり、各ダクトの奥側から吸気して1階まで伸びる送風パイプのスリットから送風していた。
- ⑦ 妻側入気口には波型の固定式ルーバーが設置されていたが、内外に金網等はなく、羽板の間隔が3cm程度のため、ネズミ等の小動物であれば出入り可能と考えられた。排気側も同様のルーバーだが換気扇外側に運転停止時に閉鎖するシャッターが設置され、平側の吸気口には金網（約1.5×1.5cm）が設置されていた。発生鶏舎の壁や入気口の金網に破損は認められなかった。
- ⑧ 消石灰は鶏舎周りに週2回程度で散布しているとのこと。
- ⑨ 鶏舎横の飼料タンク上部には蓋が設置されており、鶏舎内のラインを通じて自動給餌を行っているとのこと。飼養鶏への給与水は井戸水を利用しており、次亜塩素酸による消毒を実施した上で、鶏舎内のラインを通じて自動給水を行っているとのこと。
- ⑩ 発生鶏舎の集卵コンベアは隣接鶏舎を通過して集卵棟に連絡していた。コンベアの鶏舎外開口部にはシャッターが設置され、運転開始時には自動で開き、終了時には手動で閉める構造になっていた。
- ⑪ 鶏糞は、鶏舎ごとに3日に1回除糞ベルトにより鶏舎外に搬出され、運搬車に積み込まれて堆肥舎まで運ばれるとのこと。月1回程度北側衛生管理区域の製品置場に公道を経由して移動させており、この際車両消毒は実施していないとのこと。堆肥舎は建屋で防鳥ネットを設置しており、一部に隙間や破損が認められた。直近の堆肥の農場外への搬出は12月29日とのこと。
- ⑫ 死亡鶏は毎日朝の健康観察時に回収してバケツに入れ、農場内で焼却処理しているとのこと。
- ⑬ 重機、器材等の他農場との共用は行っていないとのこと。

6 野鳥・野生動物対策

- ① 農場周辺や農場内では野生動物は見かけず、野鳥もカラスを数羽見かける程度とのこと。調査時、農場隣接の畑地でキツネの足跡、農場内でカラス1羽及びセキレイ数羽を見かけた。
- ② 鶏舎内では時折ネズミを見かけるため殺鼠剤等での対策と駆除業者への依頼をしているが、発生鶏舎ではネズミを見かけないとのこと。調査時、発生鶏舎2階の妻側入気

口側の鉄材から集卵機の裏にかけて小型哺乳類の足跡及び尾の跡が認められた。また、隣接の非発生鶏舎において子ネズミ 3 匹の死体と断熱材のかじり跡が認められた。
(以上)